アメリカ大統領による「テロ支援国家指定」解除通告など、米朝間の関係正常化に向けた動きが進む一方、国内では関係改善の兆しが見出せない混迷の状態が長く続いていますが、その中でも良識ある人士からはこの現状を打開すべく、党派を超えたさまざまな動きが模索されてきました。今回の「集い」はまさにこのような状況の中で、日朝国交正常化運動を広範な国民運動として展開すべく取り組まれました。早くから下準備が重ねられ、主催両団体以外にも呼び掛け賛同人を広く募り、県議会議員や市議会議員、学者文化人など10人が名を連ねました。

各界・各層から幅広く参加

「集い」には同時刻に同じ小倉北区で別な平和集会が催されていたにもかかわらず、満席を超える約100名が参加し会場を埋め尽くしました。またマスコミも取材に来るなどかなり注目された集会となりました。地元の民主党前衆議院議員や北九州市議会議員なども多数参加、特に社民党市議団からは4名の参加がありました。また武田良太自民党衆議院議員からは祝電が届き秘書が参加しました。さらには労働団体から福岡県職労北九州支部の委員長ほか数名が参加しました。もちろん朝鮮総連や朝鮮学園関係者からも多数の参加がありました。

日朝国交正常化は時代の流れ

「集い」はまず、国民連合・北九州の世話人であり福岡県日朝友好協会の世話人でもある竹内良夫氏（前九州国際大学学長）が、主催者を代表して開会の挨拶を行いました。氏は今なぜ日朝国交正常化が必要なのかを分かりやすく順序だてて説き、「アジアの共生のためにも、何としてでも早急に国交正常化を成し遂げなければならない」と強調しました。続いて来賓挨拶が行われ、朝鮮総連北九州各支部を代表して小倉支部の沈浩澤委員長が挨拶を行いました。委員長はこうした「友好の集い」開催に謝辞を述べたあと、「祖国の平和統一と日朝国交正常化実現のため努力したい」と決意を語りました。

竹内良夫氏

沈　浩澤氏

熱烈に歓迎してくれた北朝鮮

訪朝報告は福岡県日朝友好協会の北原守代表＝訪朝団団長が団員の紹介のあと、現地で撮った写真映像などの説明を交えながら約1時間行いました。代表はまず今回の訪問の目的を語ったのち、北朝鮮がこれまでになく熱烈に訪問団を歓迎してくれたことを説明しました。特に先方の受け入れ機関である朝日友好親善協会の会長であり、朝鮮労働党の国際部副部長（実質はトップ）である金泰鐘氏が、団員の名前や年齢、経歴などをすべて頭に叩き込んでいたこと、大変忙しい立場の方なのに最初から最後まで付き合ってくれたこと、普段は飲めないお酒を自分も飲みながらみんなに進めたこと、などが披露されました。さらに福岡県日朝友好協会と朝日友好親善協会の間で交流協定の締結を打診されたことも明らかにしました。しかし和やかなムードの中にも「朝鮮人民は日本による植民地時代の40万人の強制連行、100万人の虐殺、20万人の従軍慰安婦という犯罪を決して忘れてはいない」という言葉が出たことも付け加えました。また日本側がいう「圧力と対話」からは信頼関係は生まれないこと、日本は「平壌宣言」を履行すべきであること、「よど号犯人」の引渡しは日本国内の問題であること、などの発言があったことも報告されました。一方、福岡県日朝友好協会側からは「拉致」や「核」については国交正常化交渉と平行して、もしくは実現後に話し合うといういわゆる「出口論」を提案、「検討に値する」と評価されたことも明らかにされました。

訪朝団員を紹介する北原団長（中央）

訪朝報告はスライドも使って行われました

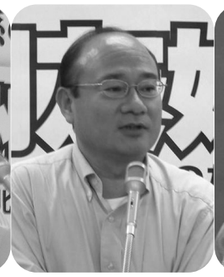
歴史的転換点での訪朝に意義

最後に北原代表は「今回の訪朝は所期の目的を達成し友好関係を深めて帰ることができた。歴史的転換点に居合わせた意義は大きい」と述べ、これから「友好の雰囲気を作っていくことが大事、そのことを広く県民に伝えていきたい。特に国会議員を動かして世論作りを進めたい」と締めくくりました。

「日朝友好北九州の集い」に参加して意見発表された団員の皆さん

平川貞夫氏（会社役員）

山口哲夫氏（市民運動家）


柴田雄次氏（自治労役員）

綛田芳憲氏（北九大准教授）

友好の確信深めた訪朝団員

続いて訪朝団員4名から感想と意見の発表がありました。大学教授、自治労執行委員、市民運動家など多彩な顔ぶれで、中でも82歳の高齢でありながら60数年ぶりの訪朝を実現した団員にはひときわ大きな拍手が巻き起こっていました。団員は一様に「訪朝してイメージがまったく変わった。これから日朝友好のために捧げたい」と語りました。

このあと質疑応答の時間に移り、参加者からの質問に対し「訪問の日程やルートはすべてこちらの希望を出して決められたものである」「一人で自由に外出もできた」「経済特区計画は自主を重んじているが、外国資本の受け入れも当然考えている」などの説明が団員からなされました。

会場を和ませてくれた歌舞団の皆さん

「友好の集い」最後を飾るアトラクション、福岡朝鮮歌舞団の華麗な踊りや歌声は会場を和ませ、友好ムードを大いに盛り上げるものとなりました。また最後に上村和男福岡県日朝友好協会事務局長（訪朝団秘書長）が閉会挨拶で述べたように、「友好を進めていこうという心をひとつにすることができた」と思います。国民連合・北九州はこれからも日朝国交正常化に向けた県民運動を、幅広い各界各層の方々と団結し推し進めていく決意です。

上村和男氏

日朝友好訪朝団の足跡

（行程表は主なものだけを表示しています。写真提供／山口哲夫さん）

23日	14:55	福岡空港出発
	15:55	青島経由で北京到着（泊）
24日	11:55	北京出発
	15:00	平壌到着（高麗ホテル泊）
	夕　方	朝日友好親善協会歓迎夕食会
25日	午　前	板門店38度軍事境界線視察
	午　後	開城（ケソン）工業団地視察
26日	午　前	人民文化宮殿にて親善協会会長と会談
	午　後	万景台少年学生宮殿公演参観
		朝鮮職業総同盟と交流・意見交換
27日	午　前	平壌外国語大学視察・参観
	午　後	労働党創建記念塔見学
28日	9:00	平壌出発
	20:30	北京・上海経由で福岡到着

団員一行平壌空港到着

北朝鮮側から見た板門店

開発進む開城工業団地

流暢な通訳の金雪花さん（右）

万景台少年学生宮殿にて

同宮殿にて刺繍をする学生

凱旋門でガイドさんと

チュチェ思想塔

福岡空港での出迎え